

源氏ぼたるの里 案内図



いすみ市の山田川周辺は、源氏ぼたるが多く自然生息するところから、市ではこの区域を「源氏ぼたるの里」に指定し、大切に保護しています。

ぼたるが飛び交うのは、午後7時半ごろから午後9時ごろまでです。観賞される方は、ぼたるを捕獲しないようお願いいたします。

ぼたるは、自然環境のよい清流を好む昆虫です。このため、地元と市では一体となって「いすみ市山田源氏ぼたるの里を守る会」を発足させ、河川浄化に取り組んでいますので、ゴミは各自で持ち帰るようご協力をお願いします。

観賞路付近には、鳥獣による農作物被害防止を目的として電気柵が設置されています。電気柵には近づかないようご注意ください。

期 間 2024. 観賞のタベ

5月25日(土)～6月2日(日)

午後7時から



ゲンジボタル観察のマナー

- 草むらや田んぼのまわりには入らないで下さい。
- 観察場所では懐中電灯の使用は避けましょう。
- ホタルの捕獲は絶対にしないでください。
- 静かに観賞しましょう。
- ゴミは持ち帰りましょう。

ホタルの一生

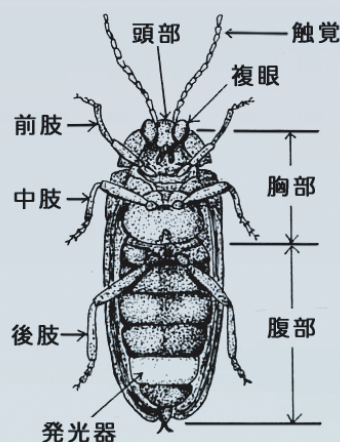
ゲンジボタルは、卵→幼虫→さなぎ→成虫と変化します。

卵から孵化した幼虫は水に入りカワニナという巻貝を食べて成長します。

翌年の4月、成長した幼虫は水から出て近くの土の中に潜ってさなぎになります。

さなぎになってから約50日後、成虫になって出てきます。

成虫の寿命は長くても7～10日くらいです。オスは、この間に必死に光って相手のメスを探します。1匹のメスは約400～1000個の卵を産みます。



ゲンジボタルの体と名称

いすみ市に生息するホタルは5種類です

ゲンジボタルとヘイケボタルの2種類は知られていますが、その他に3種類、クロマドボタル、ムネクリイロボタル、オバボタルがいます。

ゲンジボタルのオスとメス

オスとメスの一番の違いは大きさ、メスの体長は15～18mmありますが、オスは小さくて12～15mmです。

オスはお腹最後の2節が光るのに対して、メスは1節しか光りません。さらに、飛びながら光っているのはオスたちです。



ゲンジボタルの発光の特徴…同時明滅(どうじめいめつ)

ホタルが光るのは、オスとメスとが相手を確認する合図です。ゲンジボタルの発光の特徴は、「強い光」、「長い発光時間」、そして「同時明滅」です。

長い明滅時間……4～6秒間隔で、明と暗(周期的な発光)を繰り返します。発光の同調……オスは集まって、一緒に明滅します。(発光を同調させます)

オスが集団で飛翔しながら、光るタイミングをみんなで合わせ、ゆったりとした間隔で明と暗を繰り返す状態を『同時明滅(どうじめいめつ)』といいます。